

氏名	金京愛
職位	COE 研究員
<p>研究概要</p> <p>本研究では、韓国語や日本語について意味論を中心としたアスペクトや時制にかかわる問題を扱った。具体的には、現代韓国語における durative 形式を中心に動詞との関わりや構文全体における durative 形式の役割と解釈を中心に記述・分析してきた。以下、詳細について記す。</p> <p>現代韓国語には〈-ko iss-〉、〈-e iss-〉という二種類の durative 形式があり、先行研究では〈-ko iss-〉、〈-e iss-〉をそれぞれ進行と結果状態というアスペクトの意味を表す補助動詞であると分析されてきたが、この二種類の形式をアスペクトのみを表す形式として考えると説明できなくなる現象が数多くある。</p> <p>そこでまず〈-e iss-〉について、この形式を用いた文の主語に「既に存在しないもの」を取ることができないことを示し、〈-e iss-〉はアスペクトの意味を標示する補助動詞ではなく、存在本動詞〈iss-〉を主動詞とする存在構文であることを明らかにした。更に、〈-e iss-〉形式と同様〈iss-〉を含んでいる〈-ko iss-〉についても、その根拠として、格助詞との共起や語順の制約、前・中などの相対名詞の制限や修飾句による容認度の差などを挙げ、存在の解釈ができることを明らかにした。</p> <p>さらにこの結果を基に、共時的な点においては、存在タイプの〈-ko iss-〉と〈-e iss-〉は〈iss-〉を本動詞とする存在解釈が可能であり、また存在本動詞〈iss-〉を用いる存在構文と非常に近い振る舞いをすることを明らかにした。一方、通時的な点においては、〈-e iss-〉は存在の解釈のみであるのに対して、〈-ko iss-〉はアスペクト的意味と存在的意味の解釈が両方できるということから、〈-e iss-〉よりも〈-ko iss-〉の方が文法化が進んでいること、また日本語との比較という観点から考えると、日本語の「～ている」は存在の解釈は非常に難しいということから日本語の「～ている」は韓国語の〈-ko iss-〉よりもさらに文法化が進んでいるということがわかった。</p> <p>継続状態 (durative-stative) 形式をひとつしかもたない日本語との比較対照しながらこれらの現象を記述・分析することにより、それぞれの言語において各アスペクト形式（および時制形式）がもつ意味と動詞がもつ時間的な意味を分離して示すことが可能となり、また他言語との類型的類似点と相違点を研究する一般的・類型的言語研究にも新たな視点と資料を提示することができた。</p>	
<p>業績リスト</p> <p>論文</p> <p>「현대한국어의 상 형식 <-고 있->과 <-어 있-> 의 의미분석--일본어 <-te iru>와의 비교적 관점에서--」 『한국어 연구의 새 지평』 (태학사) 편저자: 이정민, 정성여</p> <p>その他 (口頭発表)</p> <p>「<-고>と<-어(서)>の意味機能について — <-고 있->と<-어 있->との関係から」(朝鮮語教育研究会 第41例会)</p> <p>「現代韓国語の二種の動詞接続形式における「存在」の意味 — 特に〈-ko iss-〉の表す二つの意味について」(関西言語学会 第34回大会、ワークショップ)</p>	

